

つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書（令和5年度）2023

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場 所	会員参加数
	7	10	月	8:30	12:30	藤小学校	8名
活動名称	藤小 流しソーメン体験					報告者：吉井 優	

1、活動目的

8年前から依頼されて実施している藤小3年野外学習支援を今年も依頼されました。今年6月から実施となりました。小学生が樹林地や河川の里山環境と触れ合うことで、生態系サービスを実感し、未来にむけて鶴ヶ島地域の生態系サービスを増大してくれることを期待します。7/10は、3年生担当教師の提案により、流しソーメン体験会を行った。

2、活動内容ほか

スタッフは、8時半に集合し、お椀づくりの竹細工作業場をつるため、木陰に3枚のブルーシートを敷いて、竹置き台と竹ノコギリを設置した。また西側通路木陰に流しソーメンの樋を3本2組設置した。10時過ぎに児童が集まり、お椀づくりと流しソーメンの説明をした。10時半ごろからお椀づくりを始め、自分の分と、父兄、教師の分まで本日使うお椀を作った。11時15分くらいから、ソーメンを流す担当と、食べる担当に分かれ、流しソーメン体験を始めた。コロナの伝染回避のため、割りばしを大量に準備し、お椀にいっぱいソーメンを確保して、それを食べた箸は廃棄し、次は、新しい箸でソーメンを取ることににより、唾のついた箸で流れるソーメンを触らない手法を実施した。児童は、お椀二杯のソーメンを食べることができたため、そこそこ満足してくれたと思う。12時過ぎに児童の流しソーメン体験は、終了し、給食時間になった。協力してくれた父兄と、我々スタッフは、残りのソーメンをたいらげ、イベント終了となった。なお、35度を超える猛暑日となり、校庭で流しソーメンができるか不安だったが、水道の近くに木陰が見つかり、お椀づくりも流しソーメンも木陰で実施することができた。スタッフの平均年齢を考慮すると、猛暑の炎天下では、不可能であった。

3、評価：

太い孟宗竹で作った樋と、真竹で作った脚を使っているため、伝統的な本物の流しソーメン体験の雰囲気があり、子どもたちに大好評であった。協力してくれた父兄も久々の流しソーメン体験に喜んでくれた。我々も竹林の竹の有効利用となる竹細工作品のなかでは、一番評価の高い作品だと思われる。学校の授業で流しソーメンに協力し、参加児童から笑顔で感謝されたことは、我々の活動の一つの目標でもあるため、心地よい達成感を味わえた。

4、課題

2020年にコロナ禍による密集回避風潮により、五味ヶ谷流しソーメン大会中止してから、3年ぶりに流しソーメンセットを作った。藤小と、お茶の水女子大付属小学校の依頼で作ったが、その後、数団体から借用依頼がきており、需要は多そうだ。今後は、竹材料を提供し、作り方を教えて地域に広めていくというやり方も考えられる。

藤小の児童が、教室から覗いていたため、来年も依頼されることを覚悟している。ただし、今年のような猛暑の中では、東市民センターの庭で開催する元気が出ない。流しソーメンセットの作成は、依頼を受け協力はするが、コロナ前のように自力でイベントを開催するかどうかは、要検討としたい。

<里山参加会員>

小澤邦、柳川、小沼、小嶋、村上、杉山、佐野英、吉井

<活動写真>

